

第35期営業の中間ご報告

(平成13年4月1日～平成13年9月30日)

証券コード 6869



第35期上半期の業績と事業活動について ご報告いたします。

第 35期上半期業績のご報告

第35期上半期の業績についてお聞かせください。
売上高については、連結ベースで20,031百万
円で前年同期比7.8%の増収となりました。

地域別に見ますと、国内では当社の強みであ
る血球計数分野の主力製品「XE-2100」の売上が
好調で、機器の設置台数増加にともない、試薬
の売上も順調に推移しました。

米州市場においては、北米市場で血液凝固分
野の売上が伸び悩みました。しかし、医療ニーズ
が急速に高まりつつある中南米市場では、検査
市場の拡大にともない売上増となりました。

また、欧州市場では、国内と同様に「XE-2100」
が順調に売上を伸ばし、試薬も好調でした。その
他、ベルギーにあるシスメックス モーリス社のIT関
連製品が売上に寄与しました。

アジア・パシフィック市場では、検査市場の拡大
が著しい中国において前年の中間期と比べ、売
上倍増となりました。今後より一層売上を拡大して
いくために、上海、香港をはじめとする販売・サー
ビス拠点を整備し、積極的に事業展開を行います。
その他のアジア・パシフィック地域においても、血
球計数分野を中心に売上は順調に伸びました。

連結ベースの経常利益は、円安の効果もあり、



1,561百万円(前年同期比20.4%増)の増益となり
ました。また、当期利益は、有価証券評価損の
影響により、498百万円(前年同期比9.0%減)
となりました。

シスメックスグループのさらなる 成長を目指し、中期経営計画を策定

今回、グループ全体としての中期経営計画を發
表されました。その内容についてお聞かせください。

この計画は国際試薬をはじめ、関係会社27社を
含めたグループとして初めてのもので、2001年10月
にスタートしました。長期ビジョンとして「A unique &
global niche company」をスローガンに掲げ、今後、
特長のあるグローバル企業としてさらに発展させるた
めに、先進のテクノロジーと独自の強みを活かした
ソリューションをお客さまに提供することにより、ヘル

スクエアテスト^{注)}における、当社の得意な領域において、リーディングカンパニーを目指そうというものです。

具体的にどのような目標をお持ちですか。

2005年に向けて、大きく3つの目標を掲げています。

そのひとつは、私たちの強みである血球計数分野で、シェア、売上とも世界No.1になることです。現在のシェアは、世界では約27%で第2位となっています。今後は当社独自の販売・サービスネットワークに加え、ロシュ社などのアライアンスを活用し、この分野でのさらなる事業拡大を図ります。

二つ目としては、検体検査分野でわが国を含めたアジア地域において、No.1の総合サプライヤーになることです。現在、アジアでのシェアは第3位ですが、世界トップ10企業のうちアジアに立地するのは当社だけであり、この利点を活かし、地域のニーズに応じたお客様への提案を行います。

三つ目の目標は、ポストゲノムに関する技術を創造し、新たな領域へ事業を拡大することです。中央研究所を中心に、治療を目的とした従来の検査から、罹患率の低減を目的とした予防のためのリスク診断、さらに確定診断などの新たな領域への拡大を図り、患者の生活を豊かにする「Quality of life」を重視していきます。

(注)ヘルスクエアテスト^{注)}=病院の検査室での検査やPOC検査に、在宅で行う検査や予防のための検査を含めたヘルスクエア全体における検査を総称した言葉です。

業績面での目標についてお聞かせください。
具体的な数値目標としましては、2004年度(2005年3月期)の決算において、売上720億円、経常利益90億円、ROE7.5%以上を目指しています。

TOBにより国際試薬株式の持ち株比率を50.8%に引き上げ子会社化しました。

私たちは環境変化に対応した事業構造の再編を迅速に進め、協力関係を強化しグループとしての一体化を図るため、今回合意に至りました。サービス&サポートの統合をはじめ、経営資源を一元化し、両社のシナジーを最大限に発揮することでグループとしての企業価値を高めていきます。

2001年11月13日、株式交換による国際試薬の完全子会社化の覚書を締結。臨時株主総会での株式交換契約書承認を経て、2002年4月1日に、株式交換により、国際試薬はシスメックスの完全子会社になります。

シスメックスグループの中期経営計画を総力をあげて推進し、株主の皆さまや投資家の方々のご期待にお応えできるよう努力を重ねてまいります。今後もより一層のご支援をよろしくお願いいたします。



取締役社長

家次 恒

日本No.1の総合サプライヤーを目指し、 独自の「サービス&サポート」体制をさらに充実。

お客様のニーズに適したトータルなソリューションを提供するには、サービス&サポートの充実が重要となります。今回は、この最前線で活躍し、中核となるテクニカルサポートセンターを中心に、わが国での「サービス&サポートNo.1」を目指す、当社の積極的な取り組みについてご紹介します。

充実した「サービス&サポート」体制が、今後の成長のカギを握る。

検体検査市場において今後さらなる成長を遂げるには、総合サプライヤーとしていかに新しい「価値」をご提供できるかが重要です。これまでは、修理・点検などの保守業務がサービスとされてきましたが、今後は当社の持つ機器、試薬、IT、学術、サービス&サポートなどのノウハウを総合的に組み合わせ、トータルなソリューションの提案が必要となります。他社にまねのできない独自の強みを活かした、「サービス&サポート」を提供していきます。

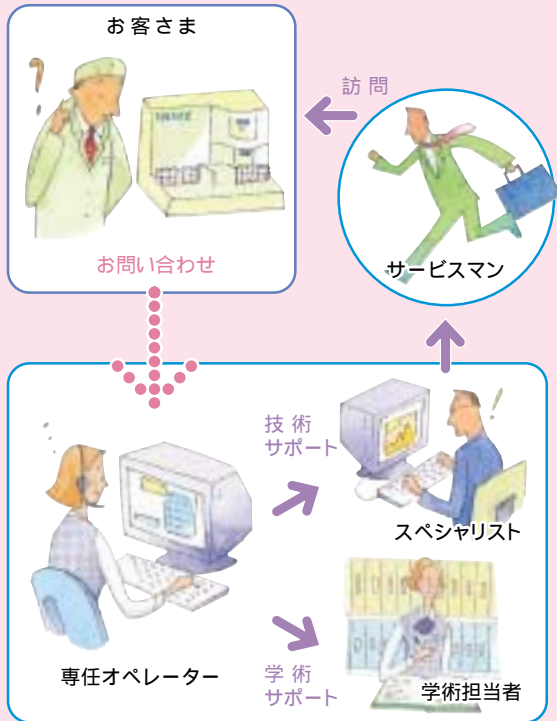
充実したシスメックスの「サービス&サポート」ネットワーク。

当社の国内におけるサービス&サポートは、全国に5支店・13営業所を網羅し、充実したネットワーク体制を備えています。また、当社の特徴として、機器のトラブル対応だけでなく、検査結果に関する学術面からのサポートも行っていることが挙げられます。

本年、国際試薬がシスメックスグループの一員になっ

たことにより、サービス&サポート機能を統合し、お客様からのお問い合わせ窓口をひとつに集約しました。今後もお互いのノウハウを共有し、さらに充実したサービス&サポートを提供します。





「サービス&サポート」の最先端、
テクニカルサポートセンター。

R&D拠点のテクニカルサポートセンター内にあるテクニカルサポートセンターでは、お客さまからの電話によるお問い合わせに専任のスタッフが対応しています。機器のトラブルなどに関するお問い合わせは、スペシャリスト(専任技術者)に引き継ぎ、状況確認と適切なアドバイスを行い、また、学術的なお問い合わせについては、学術担当者が回答します。部品の交換など電話で解決できない場合は、各支店や営業所のサービスマンに連絡し、直接訪問して対応します。お客さまからのご質問につねに専門家がお応えすることで、迅速かつ的確な対応が可能となります。

ITを活用した先進の「サービス&サポート」、
シスメックス ネットワーク コミュニケーション
システム(SNCS)。

シスメックス ネットワーク コミュニケーション システム(SNCS)は、お客さまの製品とテクニカルサポートセンターの端末をオンラインで接続し、機器のトラブルや学術面のお問い合わせに応えるサポートシステムです。このSNCSの対応機器である XE-2100 では、お客さまの機器からテクニカルサポートセンターに自動送信される分析装置の情報などを把握しています。また、お客さまの装置と同じ画面を見ながら的確なアドバイスを行う「オンラインサポート」や、リアルタイムで精度管理を行い、機器が正常に動いているかを確認し、異常があれば直ちにお知らせする「オンラインQC(Quality Control)」などのサービスも提供しています。



お客さまのコールを一括して受け付けるテクニカルサポートセンター

これからもシスメックスは、お客さまにより高度なトータルソリューションを提供するため、独自のノウハウをフルに活かし、日本での「サービス&サポートNo.1」を目指します。

グループとしての総合力を高め、新たな価値の創造に向け、国際試薬を子会社化。

2001年8月1日より、シスメックスグループの新たな一員として国際試薬株式会社が加わりました。本年7月にTOB(公開買付け)を実施し、持ち株比率を50.8%に引き上げるにより、国際試薬はシスメックスの連結子会社となりました。これによりシスメックスグループは検体検査分野において、わが国No.1の地位を確立しました。

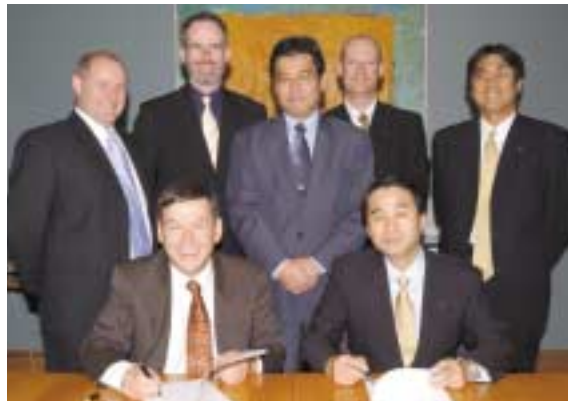
また、シスメックスに国際試薬のサービス機能を統合し、お客さまへのさらに高いレベルのサポート体制が整いました。今後はお互いの強みを活かし、グループとしてお客様へのサービス&サポート力を強化していきます。

アジア・パシフィック地域におけるIT事業の強化を図るため、ニュージーランドのデルフィック社をグループ傘下に。

当社の重要市場であるアジア・パシフィック地域では、急速に情報インフラの整備が進み、医療分野においても情報ネットワーク化が進展しつつあります。これにともない、今後ITの需要拡大が見込まれています。

当社は本年9月、この地域でのIT事業をより強力に展開するため、臨床検査情報システムの開発・販売を行うニュージーランドのIT企業デルフィック社を子会社化しました。商号を「シスメックス デ

ルフィック「ミテッド」に改め、IT事業分野におけるマーケティング、サービス体制を強化するとともに、機器・試薬・ITを合わせたソリューションビジネスを積極的に展開します。また、ベルギー、アメリカ、中国、そして日本のIT開発拠点とノウハウを融合させ、シスメックスグループ全体でのさらなる開発力の強化を図ります。



デルフィック社との調印式

デイドベーリング社との血液凝固関連製品に関する、販売提携契約を更新。

1995年に当社とデイドインターナショナル社(現・デイドベーリング社)はお互いの血液凝固関連製品に関するグローバルな販売提携契約を結んでおります。以来、両社は友好的な協力関係のもと、今日までに世界中で1万台以上の機器を納入し、約5億ドルの試薬を売上げ、凝固市場における世界シェアNo.1の地位を確立しています。

本年6月の契約更新は、世界市場においてさらに

リーダーシップを発揮し、お客さまに常に価値ある新しい提案を行うことを目的として合意されました。

アメリカのベックマン・コールター社と特許ライセンス契約を締結。

本年7月、当社の血液標本作製と白血球分類用試薬の技術に関する特許2件と実用新案1件を、アメリカのベックマン・コールター社にライセンス供与することに合意しました。これにより、血球計数分野の世界トップ企業である同社から、今後安定したロイヤリティー収入が得られることとなります。

年間売上の約10%を研究開発費に投入し、独自技術の開発を推進し、コアテクノロジーの強化と新しいテクノロジーの創造を目指す当社は、知的財産についても重要視しており、国内だけでなく海外での特許取得にも積極的に取り組んでいます。

東ソーの自動グリコヘモグロビン分析計をアジア地域で販売。

本年8月、当社と東ソ
ー株式会社は、自動グ
リコヘモグロビン分析計
(G7)を当社が日本を除
くアジア地域で販売す
ることに合意しました。
G7は血液中のグリコヘ



モグロビンを自動測定する検査機器で、糖尿病の診断や経過視察に活用されています。アジア地域では、近年の著しい経済成長で食生活が変化し、

糖尿病患者が増加していると言われ、検査ニーズが急激に高まっています。このG7を販売ラインアップに加えることは、アジアでのNo.1総合サプライヤーを目指す当社にとって大きなメリットであると期待しています。また、G7は血球計数と同じ検体(血液)で計測できるため、当社のシステム製品との組み合わせにより効果的な検査の提供が可能になります。

グローバルな事業展開を担う機器生産の拠点、加古川工場の増改築 - 新事務所棟が完成。

今後のグローバルな事業展開にともない、増大する検査機器の生産に対応するため、本年3月より加古川工場の大規模な増改築に着手しています。今回、新事務所棟部分が完成し、10月19日に竣工式が行われました。オフィススペース、来客スペースといった事務機能が集約された新しい空間になっています。

工場全体の工事が完了すると、3,000平方メートルの増築となり、生産スペースも倍増し、これからのグローバルな展開に対応できる新たな機器生産の拠点に変身します。2002年8月末に加古川工場全体の増改築が完了する予定です。



ヒトゲノム・遺伝子解析研究を推進するにあたり、「中央研究所研究倫理委員会」を設置。

近年、世界的にヒト組織や細胞を用いた研究が盛んになるにつれ、研究に必要な試料などの提供者の人権に対する配慮が重要になってきました。わが国においても本年4月、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が制定され、関連の研究を行うには倫理委員会を設置し、その場での承認と社外への公

表が義務付けられました。

当社においても、ゲノムを活用した病気の早期発見や予防といったテーマに、本格的に取り組むため、「中央研究所研究倫理委員会」を設置しました。メンバーは当社社員の他、弁護士や高校・大学の先生など計9名で構成されています。7月に「慢性疾患のリスク/テラーメイト診断法の研究」に関する第一回会合が行われ、承認を受けました。

NEW PRODUCTS

新製品情報

免疫業界に革新的な新製品が登場。世界初、当社独自の「全血測定技術」を搭載 PAMIA-40i。

当社が世界に先駆けて開発した独自の全血測定技術により、免疫業界に向けた画期的な新製品が誕生しました。通常、免疫検査を行うには、採血された血液を凝固させ、遠心分離にかけて血清のみを取り出す作業が必要でした。今回の PAMIA-40i は、全血による検査が可能のため、この前処理が不要になり、従来約1時間かかった測定時間を20分(約1/3)に短縮することができます。

これにより、患者の待ち時間を短縮でき、さらには患者の感染症を短時間で調べることで医師への二次感染を予防し、早期に治療に取り掛か



PAMIA-40i

ることができます。

この新製品を世界戦略商品と位置づけ、アジア市場導入後、欧米市場にも展開します。ぜひご期待ください。
(2001年10月発売:全血測定は12月より)

診察室や緊急検査室、ICU、手術室などに分散する POCT装置をネットワークで統合管理 POCT Web。

POCT Webは、病院内のさまざまな場所で使われている POCT(ポイント・オブ・ケア・テスト)装置をネットワークで一括管理するソフトウェアです。精度管理データや患者の検査結果などを一元管理し、必要な情報を共有することができます。検査情報の有効活用をサポートするソフトウェアの新製品で、機器・試薬・ITによるトータルソリューションを提供します。

(2001年6月発売)

POCTについては、本冊子13・14ページで解説しています。

連結子会社および関連会社



会社名	所在地	主な事業
国際試薬株式会社	日本	検体検査試薬、検体検査機器の開発、製造及び販売
メディカ株式会社	日本	ディスプレイ製品の製造 / 検体検査機器の重要ユニットの組立
トーアメディカル株式会社	日本	検体検査機器及び事務機器等のリース
シスメックス物流株式会社	日本	検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送
株式会社アール・エー・システムズ*	日本	産業用計測・検査装置の開発、製造及び販売
株式会社日本食品エコロジー研究所*	日本	食品衛生検査
① SYSMEX CORPORATION OF AMERICA	米国	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
② SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.	米国	検体検査試薬の製造及び販売
③ SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.	米国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
④ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.	ブラジル	検体検査試薬の製造及び販売
⑤ SYSMEX EUROPE GMBH	ドイツ	検体検査機器の販売及び代理店サポート / 検体検査試薬の製造及び販売
⑥ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH	ドイツ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑦ SYSMEX UK LIMITED	英国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑧ SYSMEX BELGIUM S.A.	ベルギー	SYSMEX MOLIS S.A.の持株会社
⑨ SYSMEX MOLIS S.A.	ベルギー	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑩ SYSMEX FRANCE S.A.R.L.	フランス	臨床検査情報システム用ソフトウェアの販売 / 検体検査機器、検体検査試薬の代理店サポート
⑪ SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.	スロバキア	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発・サポート
⑫ 済南希森美康医用電子有限公司	中国	検体検査試薬の製造及び販売
⑬ 希森美康香港有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑭ 希森美康医用電子(上海)有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑮ 希森美康電腦技術(上海)有限公司	中国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑯ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.	シンガポール	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
⑰ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD	マレーシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑱ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.	インド	検体検査機器、検体検査試薬の製造及び販売
⑲ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑳ MED-ONE CO., LTD.*	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉑ SYSMEX SAN TUNG CO., LTD.	台湾	検体検査機器、検体検査試薬の販売

*持分法適用会社

平成13年9月30日現在

損益計算書

科目	(単位:百万円)			
	当中間期 平成13年4月1日から平成13年9月30日まで		前中間期 平成12年4月1日から平成12年9月30日まで	
	連結	単独	連結	単独
売上高	20,031	14,853	18,579	16,293
売上原価	8,065	5,926	7,549	7,344
売上総利益	11,965	8,927	11,030	8,948
販売費及び一般管理費	10,392	7,729	9,371	7,333
営業利益	1,573	1,197	1,659	1,615
営業外収益	328	515	180	254
営業外費用	341	278	542	475
経常利益	1,561	1,434	1,297	1,394
特別利益			37	61
特別損失	253	270	160	167
税金等調整前中間(当期)純利益	1,308	1,163	1,173	1,288
法人税・住民税及び事業税	1,011	795	968	813
法人税等調整額	201	227	344	208
少数株主利益(控除)	0		2	
中間(当期)純利益	498	595	547	683
前期繰越利益		790		707
中間(当期)末処分利益		1,386		1,391

総資産 (連結・単独)

総資産は前期末に比べ、単独で約17億円、連結で約125億円増加しております。単独の増加要因は、国際試薬の株式追加取得のための借入金の増加によるものです。また、連結の増加要因は、借入金の増加に加え、国際試薬の子会社化によるものです。

(注)国際試薬の子会社化により、当中間期より国際試薬の総資産が連結上加算されております。

売上(連結)

国内および欧州の売上が順調に推移した結果、売上高は200億31百万円(前年同期比8%増)となりました。

国内:95億61百万円(前年同期比6%増)
海外:104億70百万円(前年同期比10%増)

中間純利益 (連結)

有価証券等評価損の発生、税効果適用後の法人税等負担率の上昇により、中間純利益は4億98百万円(前年同期比9%減)となりました。

経常利益(連結)

海外拠点を中心に事業基盤の整備・拡大のための投資を進める一方、原価低減に加え、円安効果も寄与し、経常利益は15億61百万円(前年同期比20%増)となりました。

貸借対照表(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成13年9月30日現在	前期 平成13年3月31日現在
資産の部		
流動資産	42,559	31,679
固定資産	25,109	23,500
繰延資産	19	39
為替換算調整勘定		
資産合計	67,688	55,219
負債の部		
流動負債	16,171	10,493
固定負債	10,535	10,607
負債合計	26,706	21,100
少数株主持分	6,530	15
資本の部		
資本金	3,384	3,384
資本準備金	5,560	5,560
連結剰余金	25,654	25,480
その他の有価証券評価差額金	171	164
為替換算調整勘定	22	158
資本合計	34,451	34,103
負債・少数株主持分・資本合計	67,688	55,219

貸借対照表(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成13年9月30日現在	前期 平成13年3月31日現在
資産の部		
流動資産	26,949	27,485
固定資産	28,343	26,113
繰延資産	19	39
資産合計	55,313	53,638
負債の部		
流動負債	9,942	7,948
固定負債	9,483	10,079
負債合計	19,426	18,028
資本の部		
資本金	3,384	3,384
法定準備金	5,950	5,918
剰余金	26,701	26,463
その他の有価証券評価差額金	150	156
資本合計	35,886	35,609
負債及び資本合計	55,313	53,638

キャッシュ・フロー計算書(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	前中間期 平成12年4月1日から 平成12年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,578	526
投資活動によるキャッシュ・フロー	501	1,722
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,279	79
現金及び現金同等物に係る換算差額	98	2
現金及び現金同等物の増減額	3,455	2,325
現金及び現金同等物の期首残高	7,338	9,901
現金及び現金同等物の期末残高	10,794	7,575

営業活動によるキャッシュ・フロー

前中間期は売上債権および棚卸資産の増加等、マイナス要因がありましたが、当中間期は大きな変動要因もなく、営業活動によるキャッシュ・フローは大幅に改善されました。

株式の状況

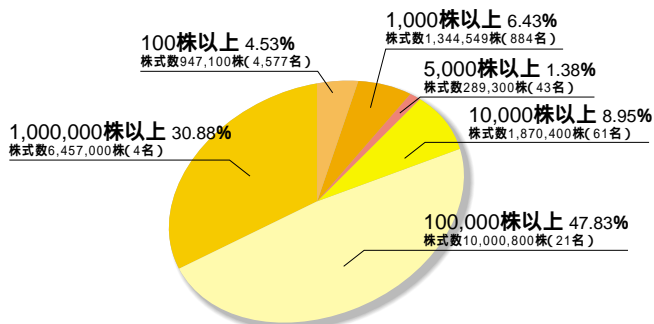
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

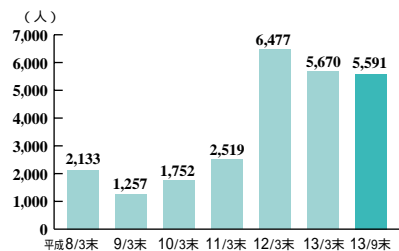
発行済株式総数

20,909,200株

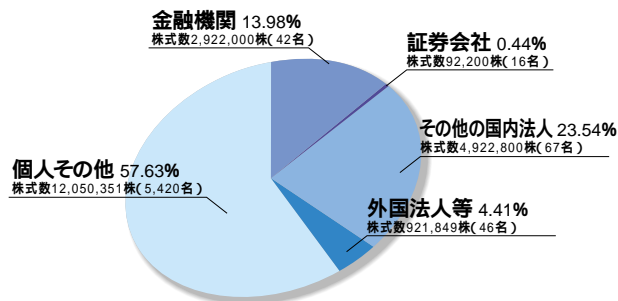
所有数別分布状況



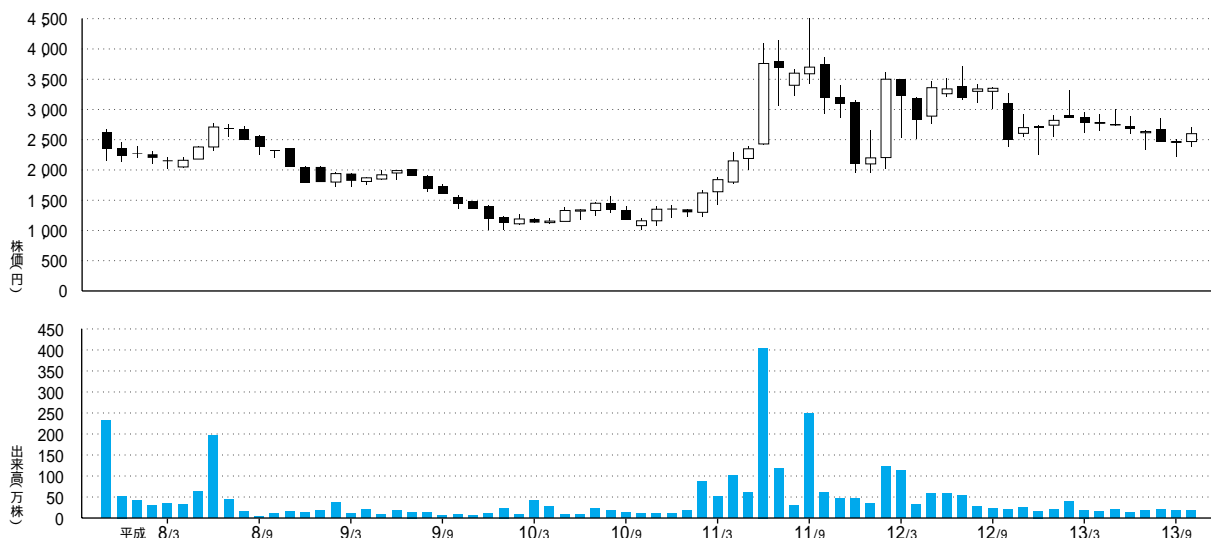
株主数の推移 (人)



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



株主メモ

決算期日	3月31日	株式事務	
定時株主總會	6月	名義書換代理人	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社
基準日		同事務取扱場所	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主總會	3月31日	(郵便物送付先、電話照会先)	〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)6391-1900(代表)
利益配当金	3月31日	同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
中間配当金	9月30日		
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。			
公告掲載新聞	日本経済新聞		
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部	お知らせ	1.住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。 2.配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
証券コード	6869		
1単元の株式の数	100株		

平成13年10月1日施行の改正商法により従来の「1単位の株式の数100株」は「1単元の株式の数100株」となりました。

会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION ('98年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更)		主な関係会社 国際試薬株式会社 メディカ株式会社 トーアメディカル株式会社 シスメックス物流株式会社 株式会社アル・エー・システムズ 株式会社日本食品工コロジー研究所 SYSMEX CORPORATION OF AMERICA(アメリカ) SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.(アメリカ) SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA(ブラジル) SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ) SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ) SYSMEX UK LIMITED(イギリス) SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー) SYSMEX MOLIS S.A.(ベルギー) SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス) SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.(スロバキア) 済南希森美康医用電子有限公司(中国) 希森美康香港有限公司(中国) 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国) 希森美康電腦技術(上海)有限公司(中国) SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール) SYSMEX (MALAYSIA)SDN BHD(マレーシア) SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド) SYSMEX (THAILAND)CO.,LTD.(タイ) MED-ONE CO.,LTD.(タイ) SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾)
設立年月日	昭和43年2月20日		
資本金	33億8490万円		
従業員数	997名 嘱託およびパートタイマー207名は含んでおりません。		
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入		
主な事業所			
本社	〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524		
テクノセンター	仙台支店	営業所	
加古川工場	東京支店	札幌、盛岡、大宮、千葉、	
小野工場	名古屋支店	横浜、新潟、金沢、静岡、	
	大阪支店	京都、神戸、広島、高松、	
	福岡支店	鹿児島	

役員のご紹介

取締役社長 (代表取締役) ... 冢次 恒	取締役 ... 日置 栄一	取締役 ... 山本 博	常勤監査役 ... 明田 光弘
専務取締役 ... 雪本 賢一	取締役 ... 中谷 正	取締役 ... 中島 幸男	常勤監査役 ... 岩田 豊太郎
常務取締役 ... 岡田 徳弘	取締役 ... 林 正好	取締役 ... 岩崎 為雄	監査役 ... 石田 義暁
常務取締役 ... 和歌 光雄	取締役 ... 大東 重則	取締役 ... 田村 幸嗣	

データは全て平成13年9月30日現在のものです。ただし株価、出来高の推移は平成13年10月31日現在のデータです。

今後、期待される新しい検査市場!!

POCT ポイント・オブ・ケア・テスト って、何だろう？

現在、医療や臨床検査を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。診断や治療に必要とされる検査結果をいかに迅速に提供できるか…。また、いかに効率よく必要な検査を行い、低コスト化が図れるか - などが大きな課題となっています。そこで現在、注目されているのがPOCT(ポイント・オブ・ケア・テスト)と呼ばれる検査です。今回は、米国ではすでに拡がりを見せ、今後、わが国でも急速な成長が期待されるこの検査について、わかりやすくご説明します。



Q POCTって何なの？

A POCTとは「ポイント・オブ・ケア・テスト」の略で、従来のように血液、尿などの検体を一括して中央検査室で検査するのではなく、手術室、救急治療室、ベッドサイドなど患者さんのすぐそばで行われる検査のことです。

Q POCTを利用するとどんな利点があるの？

A POCTは患者さんのすぐそばで行う検査であるため、短時間で検査結果を医師に届けることができ、医師が病気を素早く診断し、治療に取りかかることが可能になります。また、必要な検査を効率よく行うことにより、トータル的に医療費のコストダウンにつながります。



Point
Of Care
Testing



新生児集中
治療室

Q POCTの今後の展開は？

A POCTは検査のスピード化、医療費のコストダウンが図れるため、今後、大幅な市場拡大が期待できます。また、病院内のさまざまな場所で使われているPOCT装置を、ITを活用して院内ネットワーク化することにより、さまざまな検査情報を一元化でき、検査結果の有効活用、さらにはより効果的な治療が可能になります。POCTは臨床検査の将来において、大きな役割を担っているといえるでしょう。

Q シスメックスはPOCTにどう取り組んでいるの？

A 私たちはPOCTをこれからの重要な事業領域ととらえ、自社製品の開発はもちろん、海外提携先のロシュ社などからPOCT製品の導入を積極的に行い、品揃えの強化を図っています。また、当社の強みであるITに関するノウハウをフルに発揮し、ネットワークでデータ管理を行うソフトウェアも提供しています。2001年6月にはPOCT装置をネットワークで一元管理するソフトウェア POCT Web を発売しました。今後もお客さまのニーズに合わせた検査環境をトータルにサポートできる提案を積極的に行っていきます。



診療科

小型、軽量、簡単操作の血球計数装置
pocH-100i (2002年3月発売予定)



救急救命
センター



集中治療室

シスメックスは、高度化する医療ニーズに対応するため、POCT製品の開発をはじめ、ITを活用したネットワークの構築により、最適な検査環境の創造に取り組んでいます。

W

orldwide report

China

Jinan

シスメックス

海外事業所通信—⑥

中国 山東省



拡大する中国市場における 試薬生産の拠点

済南希森美康医用電子有限公司



翟 啓 瑞
副総経理

中国の試薬生産拠点である済南希森美康医用電子有限公司(シスメックス済南)は、山東省の省都、済南市の北東郊外にあります。約1万坪の広大な敷地をもち、正門を入ると芝生が広がり、見学者も訪れるほど美しい工場です。

シスメックス済南は1995年に設立され、主に中国向けの血球計数装置に用いる検査用試薬の生産を行っています。

済南市は人口約590万人の都市で、古来より水の豊かな都として、別名「泉城(泉の町)」と呼ばれています。市内には数多くの泉があり観光の名所となっています。秋には、千仏山という山に登り、自慢の名水でお茶をいただくなど優雅なひとときを過ごすこともできます。また、旧暦1月15日の元宵節と9月9日の千仏山山会(重陽節)には盛大なお祭りが開かれ、日本の縁日に見られる出店のようなものが立ち並び大変な人出となります。

今後は、シスメックスグループの一員である国際試薬の生化学試薬の生産を開始するとともに、安定した試薬供給体制を確立し、大幅な市場の拡大が期待される中国でのさらなる事業基盤の強化を図ります。

